

2005年度 地域生活支援センター リヒト 事業報告会



2006.03.17

於 あいとぴあセンター 4階講座室



第1部

これまでの事業について

第1章 リヒトを利用している人たち

第2章 相談支援

第3章 フリースペース

第4章 訪問・同行、その他の支援



第1部

これまでの事業について

第一章 リヒトを利用している人たち

01：リヒトの利用者・登録者

利用者・登録者の定義

リヒトを利用している人（＝リヒト利用者）・・・・・・「利用申込書」を書いた人

リヒトに登録している人（＝リヒト登録者）・・・・・・「登録証」を持っている人

リヒトでは、リヒトを利用するにあたってどなたにも「利用申込書」に必要事項を記入していただいています。「利用申込書」では、住所などの連絡先と、通院先・利用している社会資源などを記入する欄があります。「利用申込書」を記入し、スタッフに提出した人は、利用規程を遵守するとみなし、「利用者」となります。その後、継続してリヒトを利用したいと思う方には、「登録」への契約更新をお勧めしています。

契約面接を行い、スタッフの「受け入れ会議」を通過した「利用者」は、リヒトへの登録が認められ「登録者」となります。

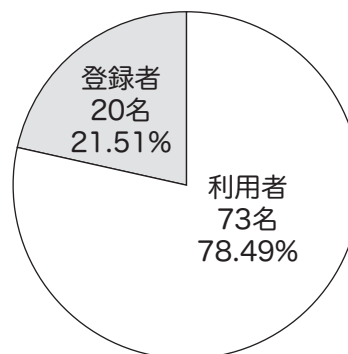
登録をすれば、同行や訪問などのサービスが受けられます。ですが、リヒトでは「登録者」にならなくても、フリースペースを自由に利用できることなどから、「登録者」の割合は少ないのが特徴です。

表 1-1 リヒト利用者の契約内容

リヒト利用者	リヒト登録者	計
73	20	93

(2006年2月28日現在)

図 1-1 利用者登録者の割合



02：利用者の性別

リヒト利用者の性別について注目したのが以下の図表です。地域生活支援センターとしては、社会的な性（ジェンダー）にも注目すべきであり生物学的な性

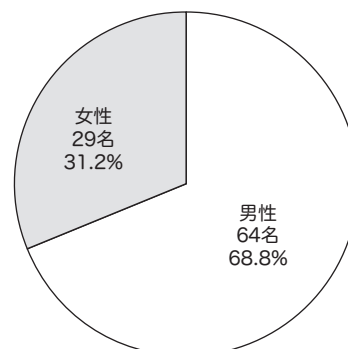
だけを取り上げることは不十分かも知れません。けれども、ひとつの指標になるかと思い性別に注目した分析を試みました。

表 2-1 利用者・登録者の男女比率

	男性	女性	計
登録者	16	4	20
利用者	48	25	73
	64	29	93

(2006年2月28日現在)

図 2-1 リヒト利用者の性別割合



03：利用者の年齢について

リヒト利用者の年齢的な特徴

- ・平均年齢（AVE）＝ 39.2 歳
- ・標準偏差（SD）＝ 9.146

リヒトを利用する人の平均年齢は 39.2 歳。数字の散らばりを表す標準偏差（SD）は 9.146 で、利用者の年齢は 39.2 歳上下 9 歳の間で利用者のほとんどの年齢がおさまる事がわかります。

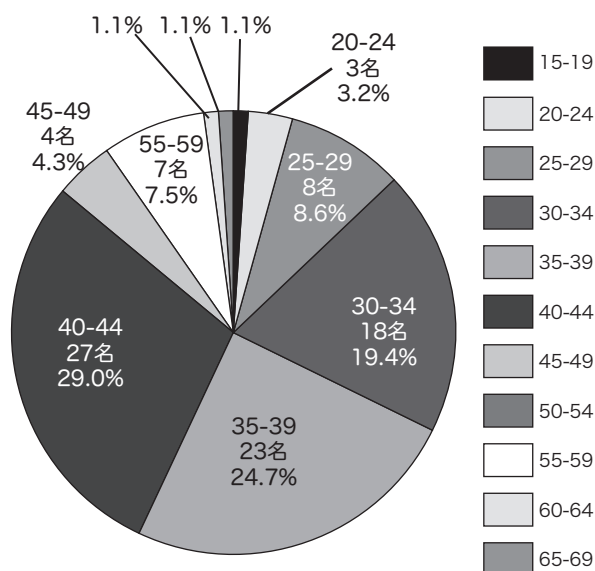
年齢層としては 40 歳～44 歳が最も多く 27 名いますが、その年齢層よりも若い層に多くが分布しているため平均年齢を押し下げているようです。

リヒトはおおむね、狛江市内にある作業所よりも平均年齢が若いようです。市内の作業所に通所している年齢層 45 歳～59 歳の人たちとの棲み分けができているのかもしれませんが。

表 3-1 リヒト利用者の年齢層

年齢層	人数
15-19	1 *
20-24	3 ***
25-29	8 ***** ***
30-34	18 ***** ***** ****
35-39	23 ***** ***** ***** **
40-44	27 ***** ***** ***** ***** **
45-49	4 *****
50-54	0
55-59	7 ***** **
60-64	1 *
65-69	1 *

図 3 リヒト利用者の年齢層（割合）



下の表 3-2 は、利用者の年齢層と家族同居か単身生活などの生活形態とをクロスさせた表です。家族と同居といっても、利用者自身がご結婚されて子育てをしている場合と、高齢のご家族と同居しているのでは、状況が違いますから一概に扱えませんが、リヒトの利用者の多くは、ご家族と同居している例が多いようです。このことは、狛江市や調布市の地域的な特徴

が反映されてるのかも知れません。

単身生活されている方の中では、生活保護を受給されている例が数多く見受けられます。単身生活されている方に対しては、個別の相談や生活支援が必要であると考えています。なお狛江市の生活保護率は約 1% だとのことです。

表 3-2 利用者の年齢層と生活形態のクロス表

生活形態	年齢層											総計
	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	
家族同居	1	2	7	7	11	16	3	0	3	0	0	50
単身生活	0	1	1	9	11	10	1	0	4	1	1	39
生活施設	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	4
総計	1	3	8	18	23	27	4	0	7	1	1	93

04：利用者の居住地について

リヒトを利用されている方は、狛江市だけではなく近隣の調布市・世田谷区などに住んでいる方もいらっしゃいます。特に調布市民の方の利用が約3割あることが特徴的です。調布市にお住まいの方は、染地や国領在住の方が多いようです。これはあいとぴあセンターが、狛江の中心部よりもやや調布側に位置しているためではないかと分析します。

狛江市にお住まいの方では、あいとぴあセンターからはやや遠い狛江市南部にあたる駒井・猪方からも多く利用されています。

現在、世田谷区と神奈川県に登録者はいませんが、過去には世田谷区在住の方が登録者だった事もあります。登録者の多くは、比較的にリヒトに近い場所に住んでいるようです。

表 4-1 リヒト利用者の居住地

契約内容	狛江市	調布市	世田谷区	神奈川県	計
登録者	14	6	0	0	20
利用者	47	21	3	2	73
計	61	27	3	2	93

(2006年2月28日現在)

図 4 リヒト利用者の居住地（割合）

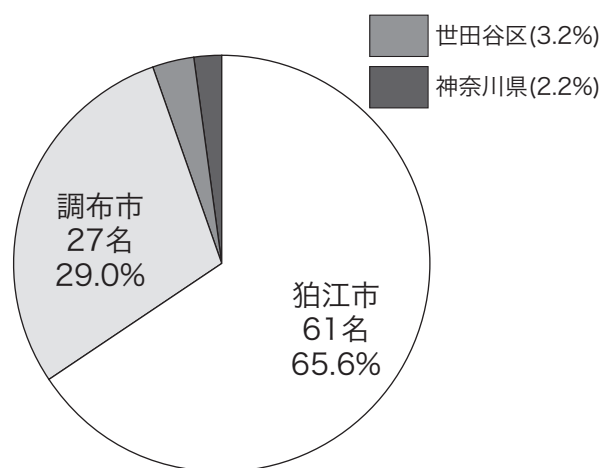


表 4-2 リヒト利用者の居住地区
上位 7 地区

順位	地域	利用者数
1	狛江市 和泉本町	11
2	狛江市 岩戸南	10
3	狛江市 中和泉	8
5	調布市 染地	7
6	狛江市 東和泉	6
7	調布市 国領町	6
	狛江市 駒井町	5

表 4-2 は、リヒト利用者の住居地区をもう少し細かく見た表です。居住している方の多い順に、TOP7 を掲載しました。

この表からわかることは、やはり、あいとぴあセンターに近い地域から多くの方が利用している事が理解できるという点です。リヒトから遠い地域である駒井・猪方方面にお住まいの方でリヒトを利用される方は、市内を巡回している無料の福祉バス「みどり号」を利用されていることが多いようです。

調布市の場合、国領・染地地域にお住まいの方がよく、リヒトを利用されている事がわかります。

調布市では、国領・染地以外の地域からあいとぴあセンターへ向かうとき、バスや電車などの公共交通のアクセスは良いとは言えません。ですが、京王線西調布や仙川・つつじヶ丘・柴崎からも利用されている方がいらっしゃいます。交通費もかなりかかると思われますけれども、それぞれの利用目的に沿ってご利用いただいているようです。

05：通院先の特徴について

表 5 リヒト利用者が通院する医療機関のある地域と利用人数

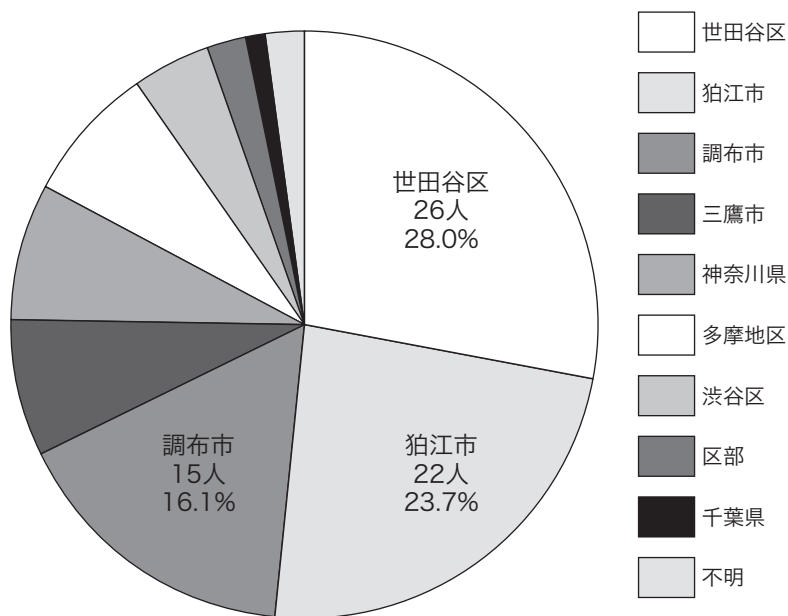
地域	世田谷区	狛江市	調布市	三鷹市	神奈川県	多摩地区	渋谷区	区部	千葉県	不明
利用人数	26	22	15	7	7	7	4	2	1	2
割合 (%)	28.0	23.7	16.1	7.5	7.5	7.5	4.3	2.2	1	2.2

(2006 年 2 月 28 日現在)

※集計にあたっては、利用人数の多い世田谷区・渋谷区をひとつの項目とし、その他の東京都区部をひとま

とめにしました。同様に多摩地区も狛江・調布・三鷹以外の多摩地域をひとまとめにしました。

図 5 リヒト利用者が通院する医療機関のある地域と利用人数（割合）



(2006 年 2 月 28 日現在)

狛江市内には、精神科単科の病院はありません。医療機関としては、総合病院である東京慈恵会医科大学附属第三病院に精神神経科の外来があり、狛江駅近くに精神科を標榜する狛江のんびりクリニックがあります。2004 年春に狛江のんびりクリニックができるまで、狛江市内に精神科等の診療科目のある医療機関は慈恵医大しかなく、多くの方は世田谷区や調布市にあるクリニック・病院に通院していたようです。

表 5 と図 5 は、リヒトを利用している方が、どの地域まで通院に行っているかを示したものです。狛江市内には精神科のある医療機関が少ないため、多くの

方が世田谷区や、調布市に行っている事がわかります。世田谷区・調布市には精神科・神経科・心療内科などを標榜する医療機関が多数あり、リヒトを利用しはじめてから通院先を変更しているかたもいらっしゃいます。今回の統計では、2006 年 2 月 28 日現在の状況を示しています。

傾向として、狛江の南部に住んでいらっしゃる方は、小田急線沿線にある医療機関を利用していることが多く、狛江の北部に住んでいらっしゃる方のなかには、京王線沿線の医療機関を利用している例もありました。

06：利用者の紹介元

表 6 リヒト利用者の紹介元

紹介元	人数	割合 (%)
さつき会	29	31.2
狛江市役所	14	15.1
利用者	7	7.5
シリウス (旧狛江調布保健所専門グループワーク)	6	6.5
多摩府中保健所	6	6.5
特になし	5	5.4
調布市役所	5	5.4
市内：医療機関	4	4.3
市外：作業所	3	3.2
狛江市社会福祉協議会	3	3.2
市外：地域生活支援センター	2	2.2
区部保健所	1	1.1
市外：医療機関	1	1.1
都外：医療機関	1	1.1
府中ハローワーク	1	1.1
多摩総合精神保健福祉センター	1	1.1
不明	4	4.3

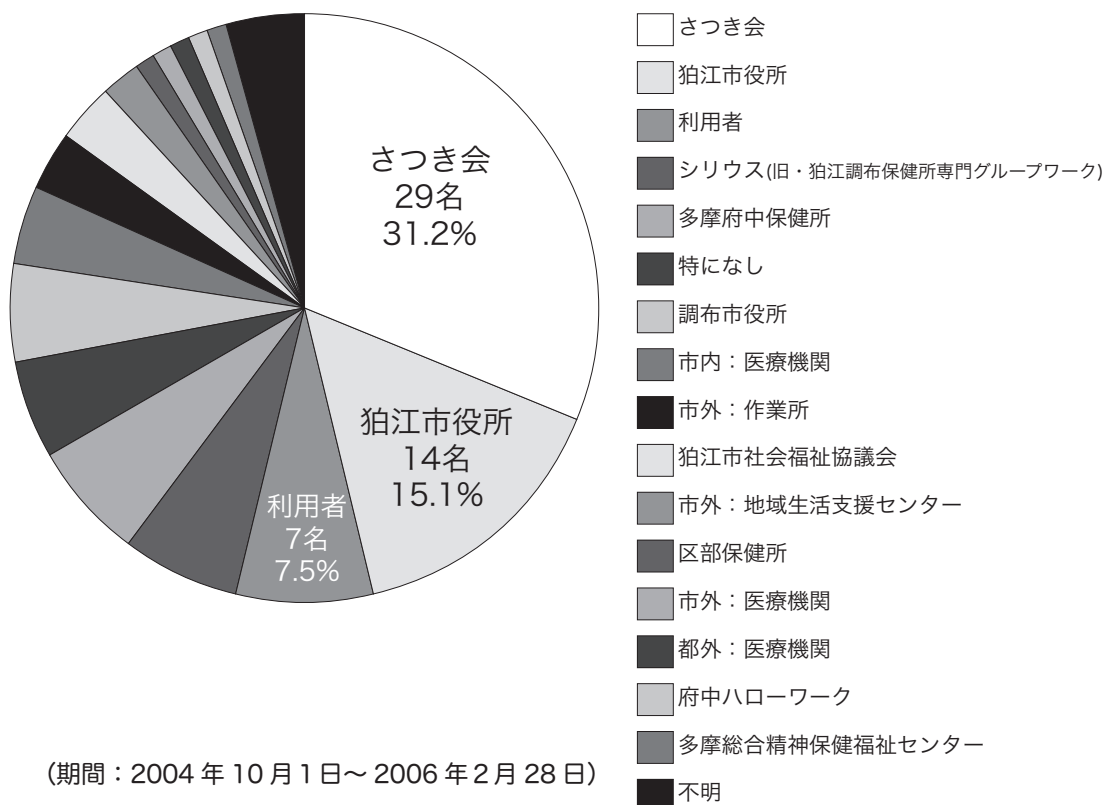
(期間：2004 年 10 月 1 日～2006 年 2 月 28 日)

「さつき会」とは、リヒトの運営主体である NPO 狛江さつき会とその参加の作業所・グループホーム・家族会を指します。NPO 狛江さつき会は、リヒトの他にワークイン・たまがわ、ワークイン・野川、グループホーム朋・家族会を運営しています。

シリウスとは、2004 年 4 月に多摩府中保健所に統合された旧・狛江調布保健所で行われていた専門グループワークを指します。シリウスは 2004 年度末まで狛江調布保健所跡地で多摩府中保健所の運営する専門グループワークとして実施されていました。リヒトスタッフがシリウスのグループワーカーだったこともあり、多摩府中保健所とは別立てで換算しています。

狛江市役所は障害福祉係からの紹介がすべてですが、調布市役所からは障害福祉課・生活福祉課・健康課のそれぞれから、利用者を紹介いただいています。

図 6 リヒト利用者の紹介元（割合）





第1部

これまでの事業について

第二章 相談支援

07：面接相談について

リヒトでは、2004 年 10 月から 2006 年 2 月末日までの 1 年 5 ヶ月の間、合計 994 件の面接相談を行いました。面接相談とは、原則的に面接室で行なう面接で、おおよそ 45 分から 1 時間程度のものをいいます。リヒトで面接相談をするとき、相談室で行なう場合が多くあります。フリースペースからやや距離のある面接室を利用するため、相談室のことを敬遠する方もいらっしゃいました。しかし、2005 年度になって個別面接の数が増え、定期的な面接が増えてきています。これは、登録者が定期的な面接を希望しているた

めで、この傾向はスタッフが望んでいる傾向と合致しています。スタッフはこの傾向を良いものであると評価しています。

また、フリースペースなどで行われている「相談」に関しては、これまで個別面接として換算していませんでした。今後は、「生活場面面接」というくくりで統計上を含めていく予定です。現在、フリースペースで行われている「相談」に換算できるものを含めると、面接の件数は 944 件よりも多く行われています。

表 7 面接相談延べ人数（契約別）

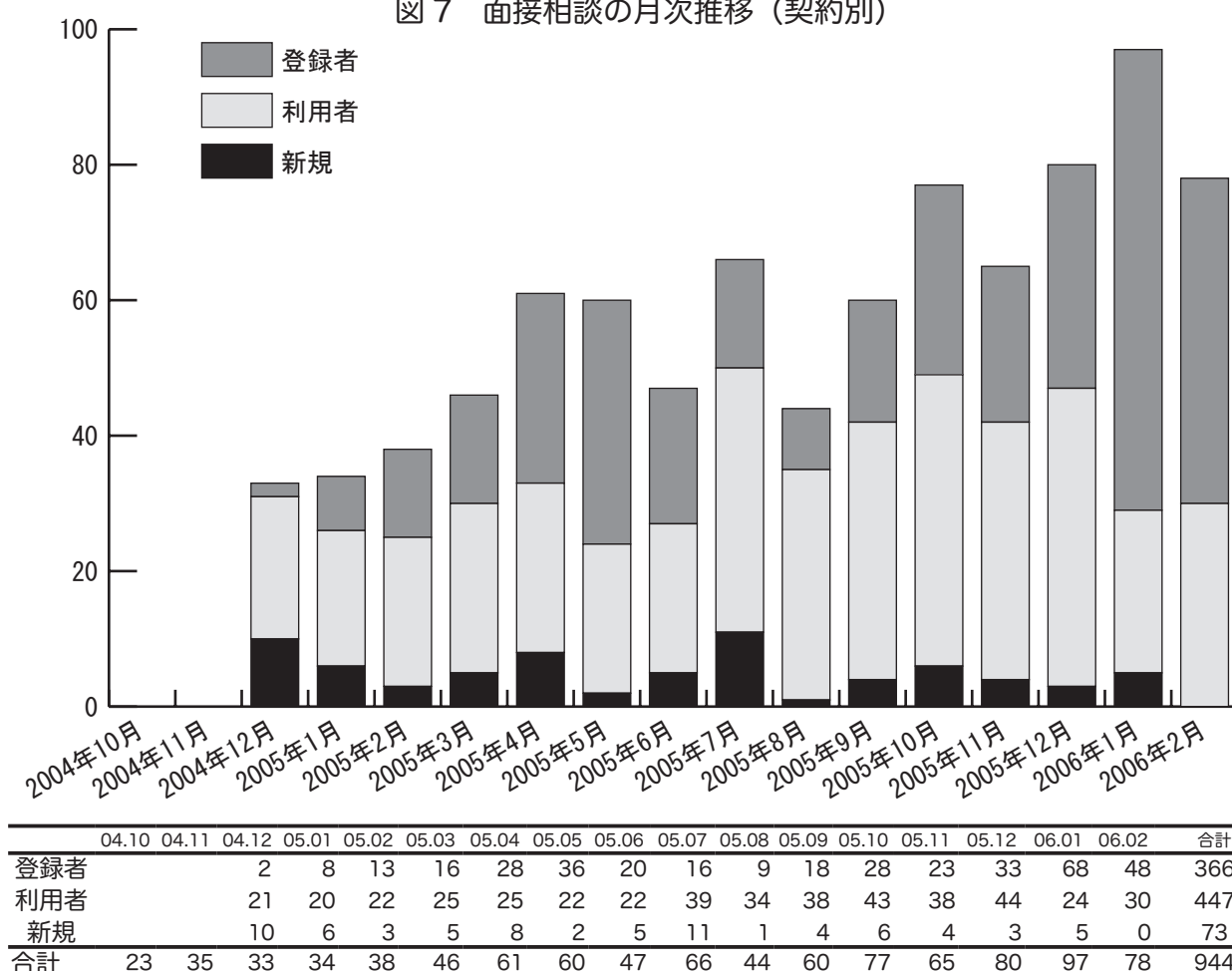
新規	利用者	登録者	合計
73	447	366	944

（期間:2004年12月1日～2006年2月28日）

※「未分類」の項目について

リヒトで、統一した形式で相談統計を取り始めたのは 2004 年 12 月からです。そのため、2004 年 10 月～11 月に関しては分類できていない数字になっています。

図 7 面接相談の月次推移（契約別）



08：面接相談について

表 8 面接相談の対象

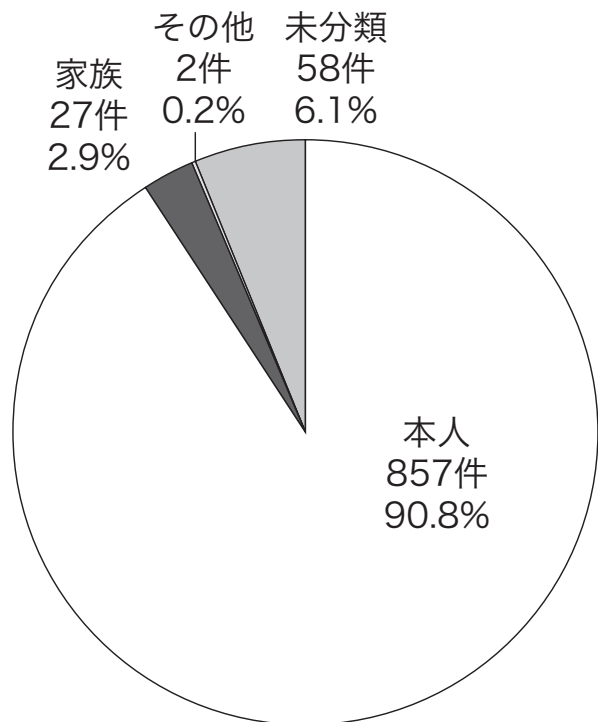
本人	家族	その他	未分類	合計
857	27	2	58	944

(2004 年 10 月 1 日～2006 年 2 月 28 日現在)

※「未分類」の項目について

リヒトで、統一した形式で相談統計を取り始めたのは 2004 年 12 月からです。そのため、2004 年 10 月～11 月に関しては分類できていない数字になっています。

図 8 面接相談の対象（割合）



(期間：2004 年 10 月 1 日～2006 年 2 月 28 日)

図 8 は面接相談について、どのような対象との面接が多かったのかを示したものです。圧倒的にリヒトを利用されているご本人との面接が多いことがわかります。

一方で、ご家族のみで相談にいらした例も僅かながらありました。比率としてご家族の相談が少ないのは、NPO 狛江さつき会では別個に家族会が相談窓口を持っているからかも知れません。なお、その他は、親族や知り合い・近隣のかたからの相談でした。

09：面接相談内容について

リヒトでは面接相談後に記録を取る際、面接内容の傾向を調べるために、12 項目に分類しています。例えば、面接のなかで家族についての話題になった場合、「家族に関する事柄」にチェックするという具合にしています。このチェックは、スタッフの判断によるものなので偏りがある事は事実です。

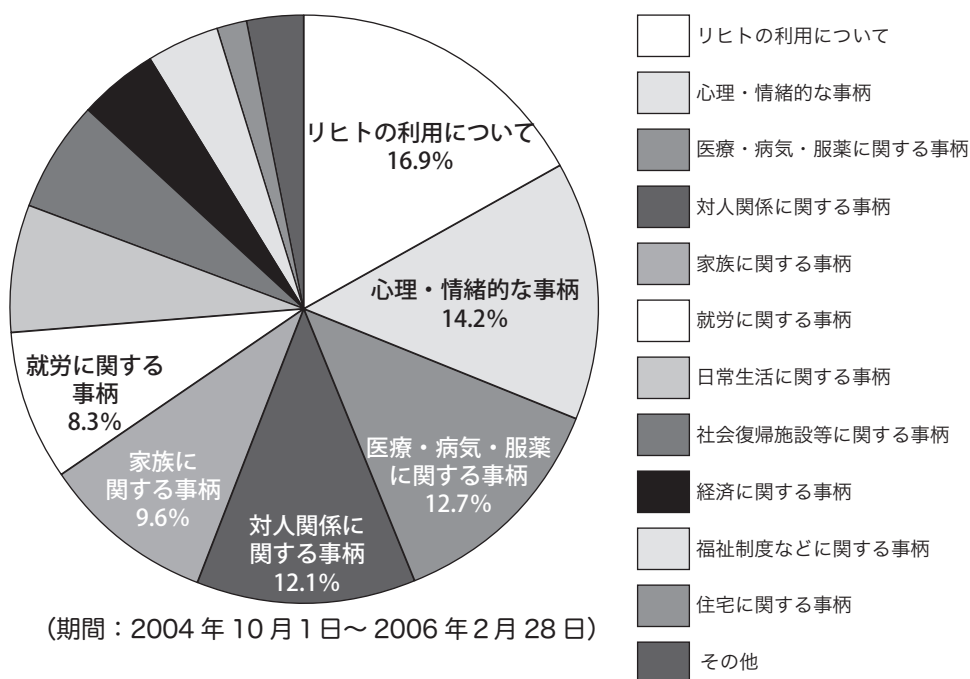
リヒトで行われた相談のうち、以上の分類を行った相談は 886 件ありました。その 886 件の相談では

合計 2678 ケ所にチェックがありました。

以下の図はチェックの合計 2678 のうち、12 に分類した相談内容がどのような割合で行われているのかをグラフにしたものです。

リヒトで行われている相談の傾向が理解できるかと思います。

図 9 面接相談の内容（割合）



面接相談で話されている内容については、「リヒトの利用について」の内容が最も多く、次いで「心理・情緒的な事柄」となっています。リヒトを利用するご本人が、面接のなかで、「今後リヒトをどのように利用していくのか」を語るのは当たり前のことかも知れませんが、その次に「心理・情緒的な事柄」について触れることが多いことは、リヒトで行われる面接の傾向を端的に表しているように思えます。ご自身が生活していく中で何かを決めたり・選んだりする際、そうした行為自身に自信が持てなくなったり、何らかの都合で迷われている場合などが多く見受けられるか

らです。結果的に心理カウンセリングのような関係を求められている事例も見受けられます。

図 9 からわかるように、面接相談の内容は多岐にわたっています。特に「医療・病気・服薬」などの事柄や「対人関係」に関する事柄についての相談が多いことは、「精神しょうがい」の特徴を表しているように思えます。

10：電話相談について

表 10 電話内容延べ人数

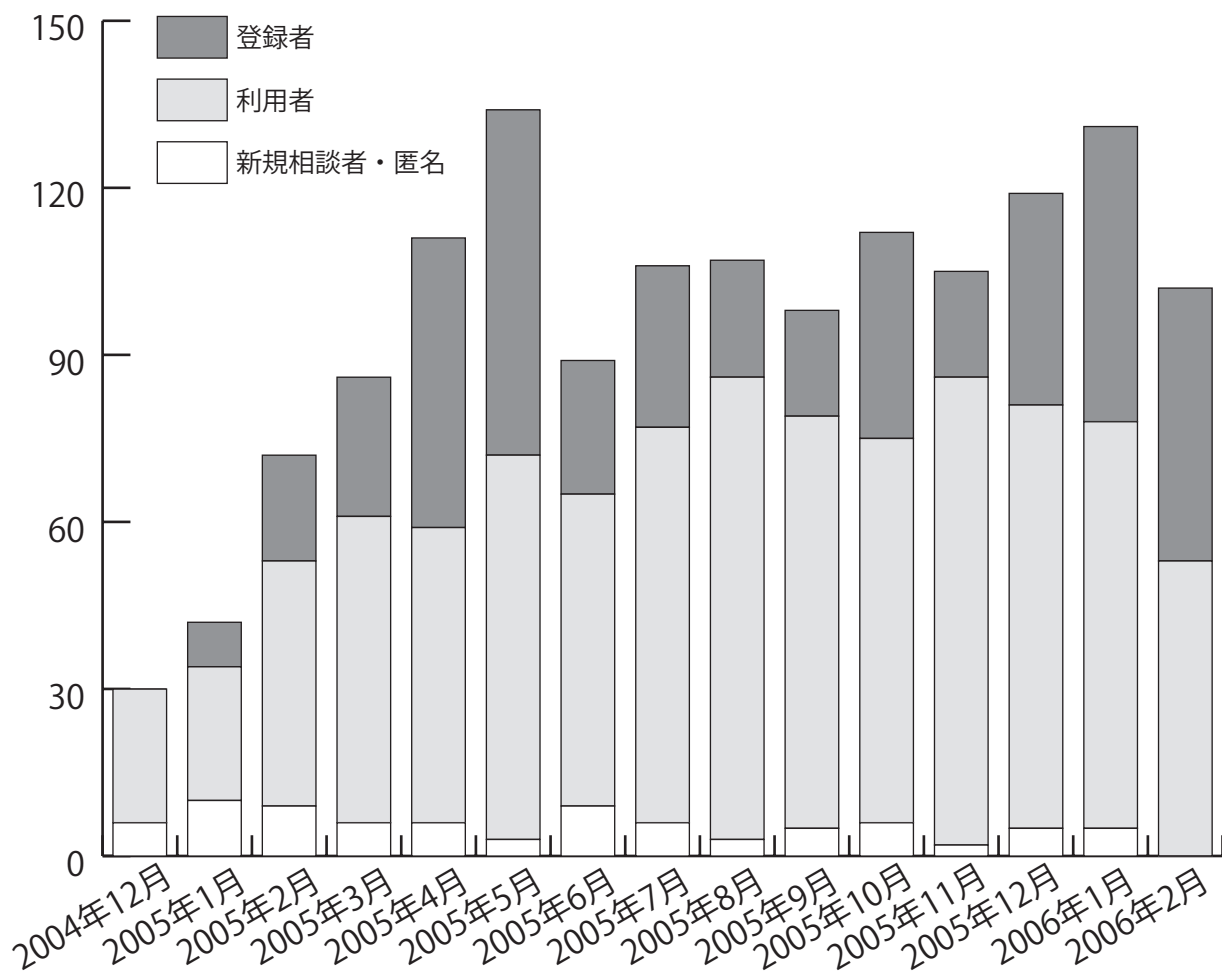
新規相談者 匿名	利用者	登録者	未分類	合計
81	908	455	38	1,482

(期間:2004年10月1日～2006年2月28日)

※「未分類」の項目について

リヒトで、統一した形式で相談統計を取り始めたのは2004年12月からです。そのため、2004年10月～11月に関しては分類できていない数字になっています。

図 10 電話相談の月次推移（契約内容別）



	04.10	04.11	04.12	05.1	05.2	05.3	05.4	05.5	05.6	05.7	05.8	05.9	05.10	05.11	05.12	06.1	06.2
登録者			6	8	19	25	52	62	24	29	21	19	37	19	38	53	49
利用者			24	24	44	55	53	69	56	71	83	74	69	84	76	73	53
新規相談者・匿名			0	10	9	6	6	3	9	6	3	5	6	2	5	5	0
合計	12	26	30	42	72	86	111	134	89	106	107	98	112	105	119	131	102

11：電話相談の内容について

リヒトでは面接相談後に記録を取る際、面接内容の傾向を調べるために、12 項目に分類しています。これは、面接相談と同様の項目を用いています。

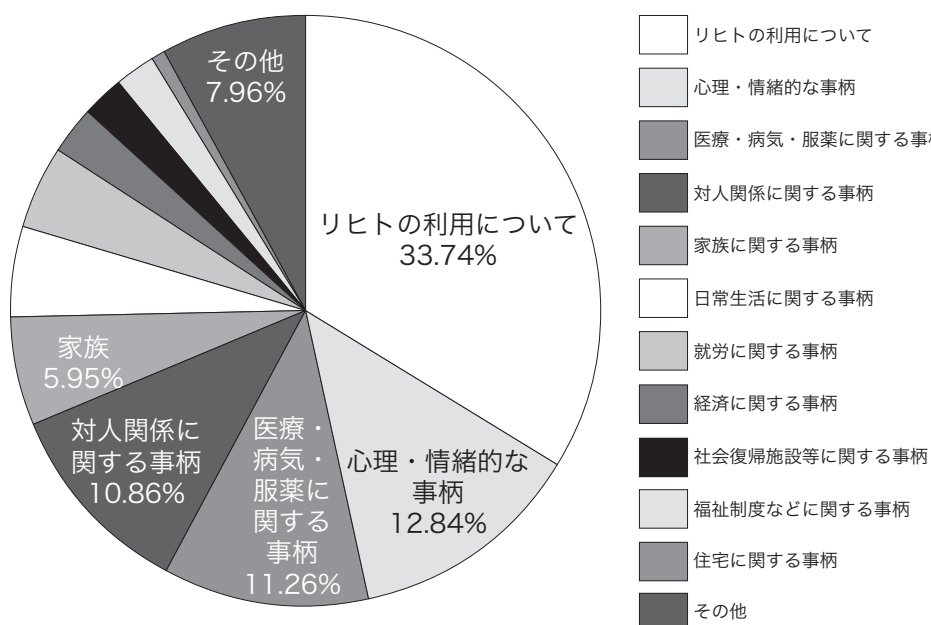
例えば、電話での相談のなかで家族についての話題になった場合、スタッフは「家族に関する事柄」にチェックするという具合にしています。このチェックは、スタッフの判断によるものなので偏りがある事は事実です。

リヒトで行われた相談のうち、以上の分類を行った電話相談は 1444 件ありました。その 1444 件の相談では合計 2789 ケ所にチェックがありました。

以下の図はチェックの合計 2789 ケ所のうち、12 に分類した相談内容がどのような割合で行われているのかをグラフにしたものです。

リヒトで行われている電話相談の傾向が理解できるかと思います。

図 11 電話相談の内容（割合）





第1部

これまでの事業について

第三章 フリースペース

12：フリースペースの利用について

表 12 フリースペース利用の延べ人数

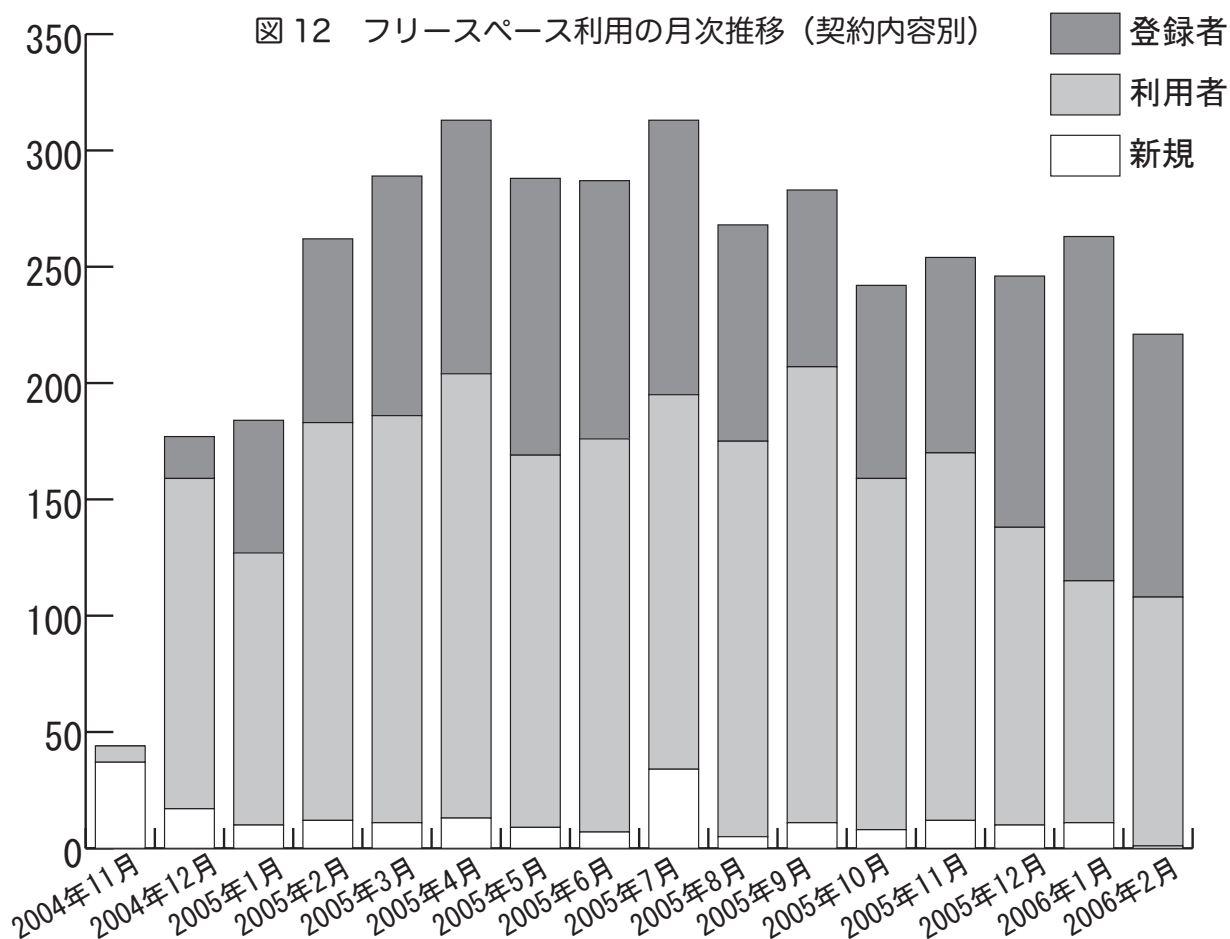
新規	利用者	登録者	合計
208	2,307	1,419	3,934

(期間:2004年12月1日～2006年2月28日)

フリースペース（交流室）の開放はリヒトの中心的な事業です。フリースペースを居場所のように利用される方もいらっしゃる、家から社会に出るための第一歩と位置付けている方もいらっしゃいます。

狭いフリースペースの空間ですが、多くの方が利用されていることをスタッフは嬉しく思っています。また、スタッフはフリースペースで話される何気ない会話から、ご本人の生活上の課題を発見したり、様々な人とのかかわりをみることで対人関係の傾向をつかんだりする場となっています。フリースペースでのかかわりから個別の相談支援へという流れが、リヒトでの支援の核心であると考えています。

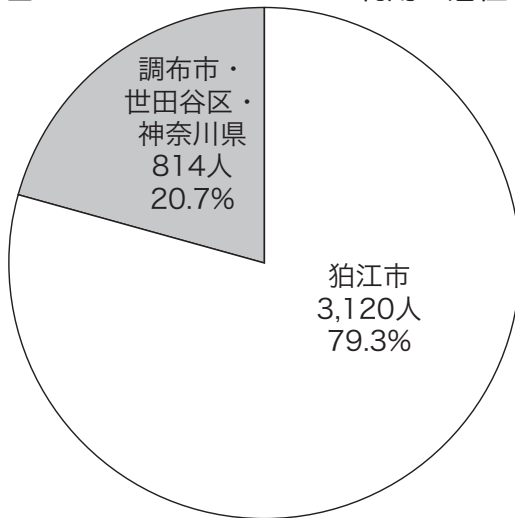
なお、最近登録者の利用率が向上してきているのも特徴です。



	04.11	04.12	05.1	05.2	05.3	05.4	05.5	05.6	05.7	05.8	05.9	05.10	05.11	05.12	06.1	06.2
登録者	0	18	57	79	103	109	119	111	118	93	76	83	84	108	148	113
利用者	7	142	117	171	175	191	160	169	161	170	196	151	158	128	104	107
新規	37	17	10	12	11	13	9	7	34	5	11	8	12	10	11	1
	44	177	184	262	289	313	288	287	313	268	283	242	254	246	263	221

13：フリースペース利用について（地域別）

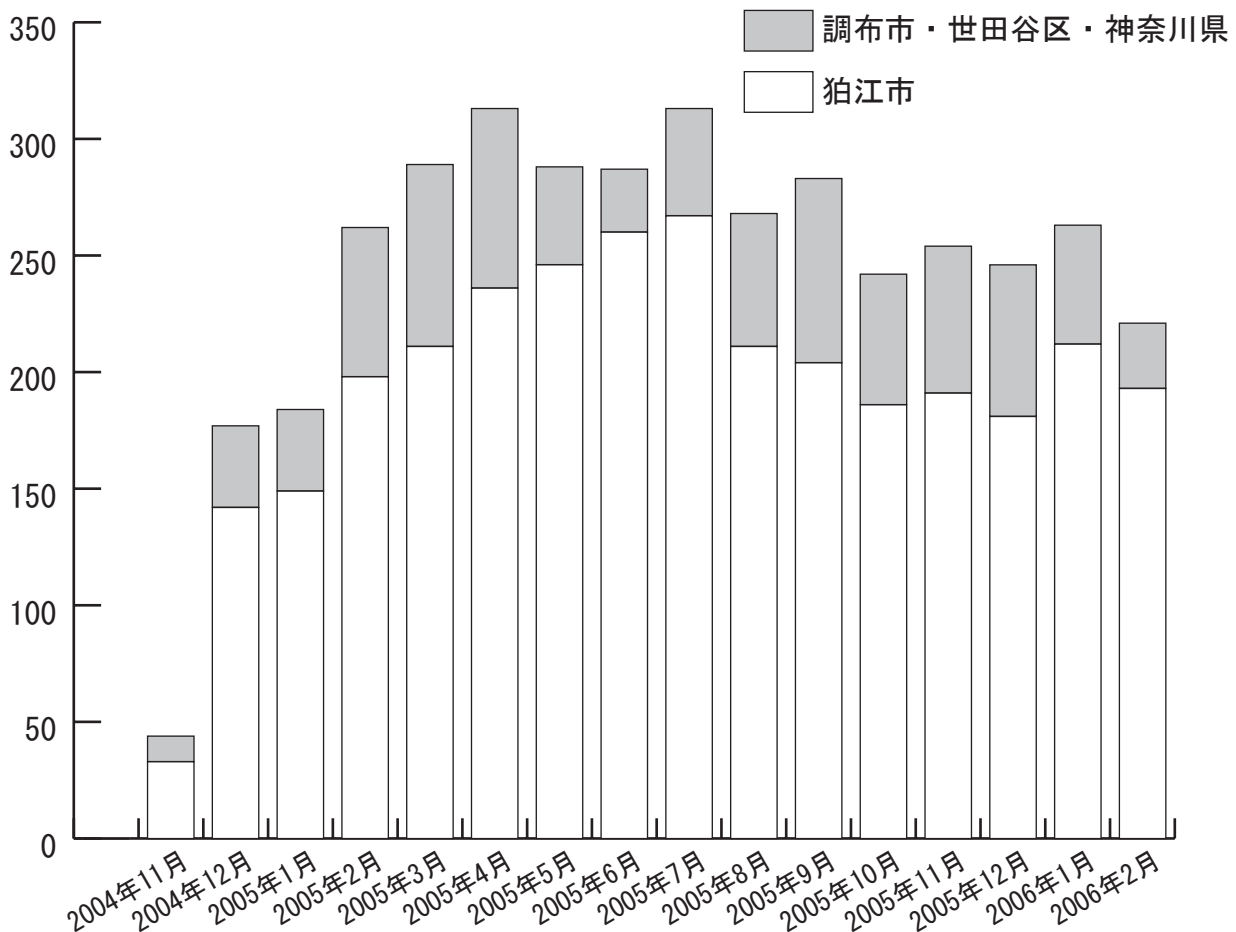
図 13-1 フリースペース利用の居住地別割合



フリースペースを利用される方は、やはり狛江市在住の方が多いようです。「利用申し込み」や「登録」などの契約に関する比率で言えば狛江 65：他市 35 なのに、フリースペース利用では狛江 80：20 と大幅に狛江市在住の方の利用が多くなっています。

これは、リヒトが狛江市の方により多く利用されていることを表していると考えます。リヒトを利用されている方の地域での生活と、リヒトのフリースペース利用が噛み合っている事を示していると分析しています。

図 13-2 フリースペース利用の月次推移（居住地別）



14：フリースペースプログラム（実施内容）

表 14 フリースペースでのプログラムの実施について

延べ実施回数	延べ参加人数
167	717

（期間：2004 年 10 月 1 日～2006 年 2 月 28 日）

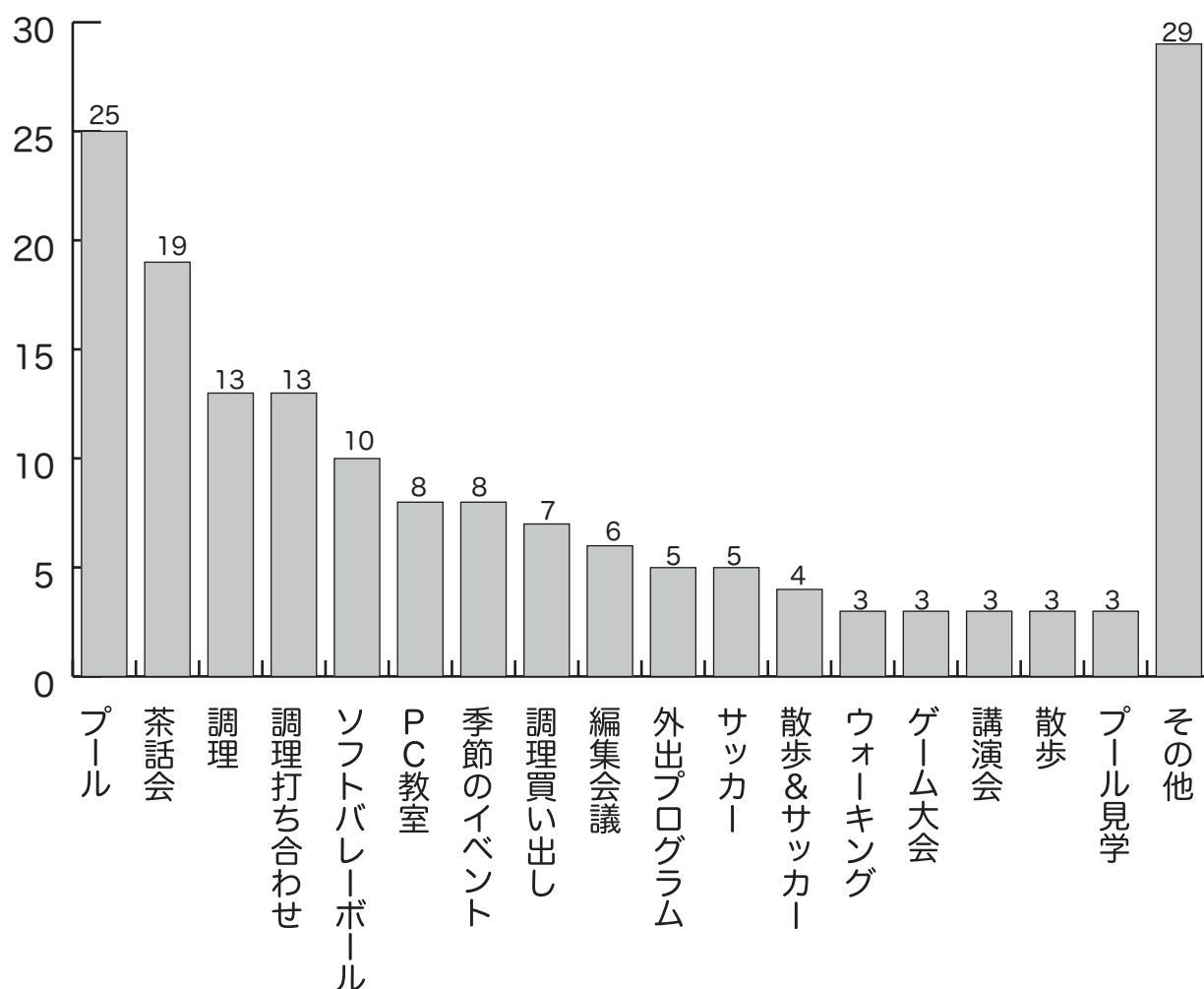
フリースペースでは様々なプログラムが、リヒトを利用されている方から提案され、実施しています。何日も計画積み上げたものや、その場その時の「ノリ」で急に行われることもあります。

フリースペースのプログラムは、原則リヒトを利用している方たちが自主的に企画し、運営するという形式になっています。スタッフはあくまで安全の確認とサポートをすることが役割となります。

リヒトは比較的プログラムの少ない支援センターであると分析しています。これは、何もかもをスタッフが提供するのではなくて、リヒトを利用している方々の、自主性や興味・関心を大切にしたいという思いがあるからです。

図 14 フリースペースプログラムの延べ実施回数

（期間：2004 年 10 月 1 日～2006 年 2 月 28 日）



15：フリースペースプログラム（参加人数）

表 15 フリースペースプログラムの延べ参加人数

内容	人数	内容	人数
茶話会	124	見学	14
調理	78	サッカー	12
プール	75	プール見学	11
ソフトバレーボール	52	ウォーキング	10
季節のイベント	46	調理買い出し	10
調理打ち合わせ	43	ヨガ	10
編集会議	31	プログラム委員会	10
ゲーム大会	22	ちょっと動く日	8
外出プログラム	19	散歩	5
散歩＆サッカー	16	講演会	3
PC 教室	14	その他	104

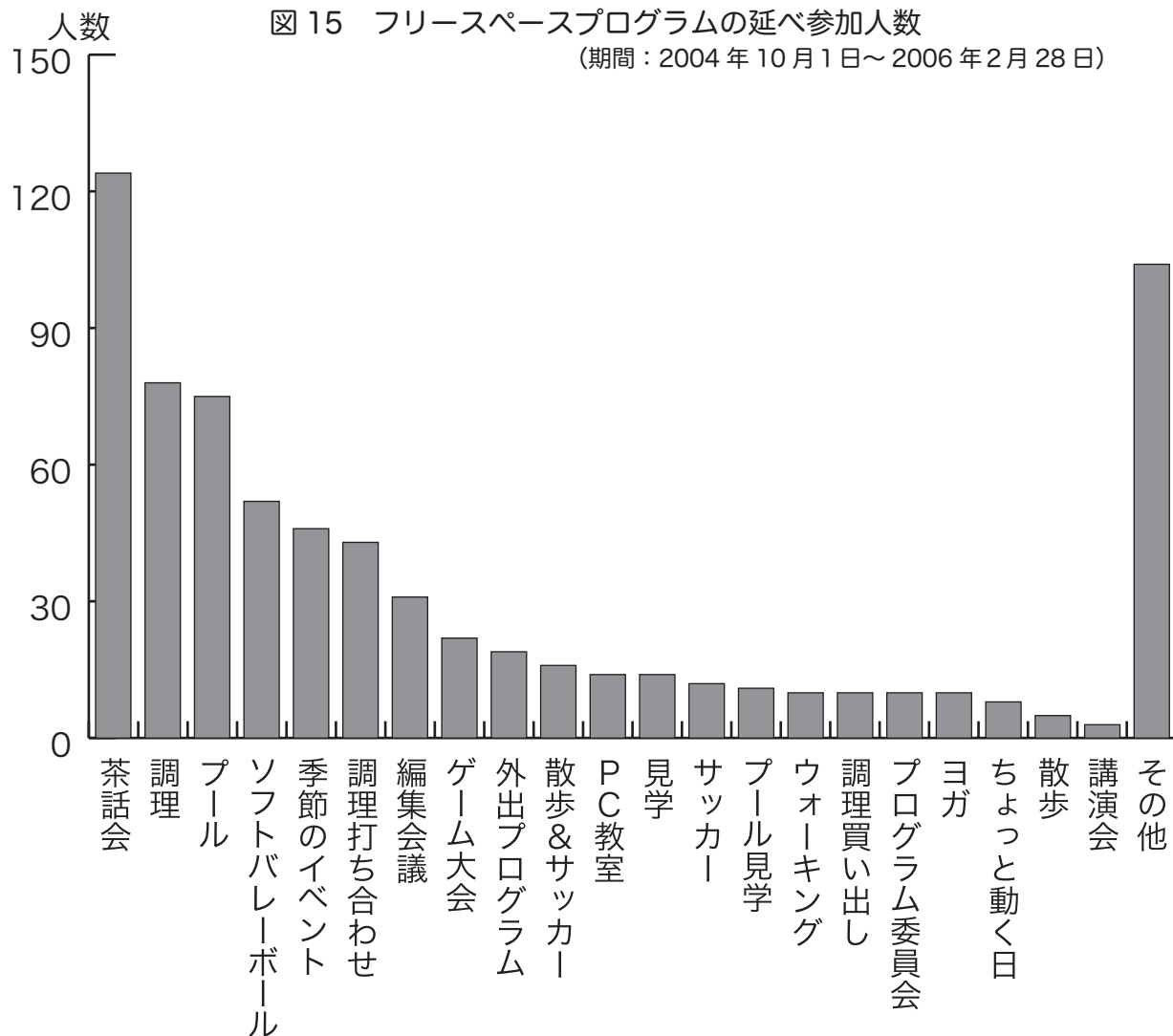
（期間：2004 年 10 月 1 日～2006 年 2 月 28 日）

表 15 と図 15 はフリースペースで行われてきたプログラムに参加した延べ人数を表したものです。定期的に行ってきた茶話会・調理などのプログラムへの参加者が多いことが特徴です。また、2005 年度からはじまったプールも一定数の利用があります。

プログラムに関しては、その内容が多岐にわたり、統計処理がしづらい傾向にあります。

図 15 フリースペースプログラムの延べ参加人数

（期間：2004 年 10 月 1 日～2006 年 2 月 28 日）





第1部

これまでの事業について

第四章 訪問・同行、その他の支援

16：訪問・同行、その他支援について

表 16 その他の支援について

訪 問	19
同 行	11
支援検討会議	6
手紙、電話による連絡	95
その他の個別支援	10

(2004年10月1日～2006年2月28日)

■登録者を対象にしているもの

訪問・同行について

リヒトでは、登録者に限定して訪問・同行の支援を行っています。訪問や同行の実績が少ないのは、リヒトの登録者が少ないということの裏返しであるとも言えます。

訪問は、登録者の自宅への訪問が主ですが、入院中の病院への訪問も含まれています。また、ここで述べている同行では、社会復帰施設や作業所への見学は含まれていません。

支援検討会議について

支援検討会議とは、端的に言えば「ご本人を交えたケースカンファレンス」です。ご本人に関する社会復帰施設や作業所・医療機関・行政機関などの専門職の参加を調整し、ご本人とリヒトのスタッフも含め全員が一同に会して『今後のご本人の方向性を話し合う』機会を設けるといいます。

スタッフはこの「支援検討会議」の仕組みがもっと機能していくように努力しています。多くの方の利用を希望しています。

■その他支援

手紙・電話による支援

長い間リヒトに顔を見せてもらっていない方や、単身生活などをされており、定期的に暮らしぶりを確認した方がよいとスタッフが判断した場合など、手紙や電話を活用し、ご本人とコンタクトを取り支援に結びつけています。数は少ないものの丁寧なやり取りを心がけている支援のひとつです。

その他の個別支援

これまで述べてきた支援の中のどれにも当てはまらないような支援を指しています。たとえば、リヒトの利用者ではない人だけでも他機関から面接を依頼された例などがあります。

■地域の社会資源との関係を深める活動

狛調ネットの運営協力

狛調ネットという、調布・狛江地区にある精神保健福祉関連施設等に勤めているスタッフを対象にした有志の勉強会があります。リヒトはその活動を応援し、運営に関しても協力をしています。地域生活支援センターは地域の施設のネットワークを構築・維持していく事も必要だと考え、それがひいてはリヒトを利用している方々のメリットとなると考えています。なお、2005 年度末に狛調ネットで編集・作成した「社会資源 map」の冊子が完成します。リヒトに関係するみなさんには、一冊ずつお配りしたいと思っています。

外部団体からの講師依頼

リヒトスタッフに依頼のあった団体は以下のようなものです。(順不同)

・狛調ネット ・町田保健所 ・町田精神保健協議会 ・狛江市社会福祉協議会 ・狛江市：生活福祉係

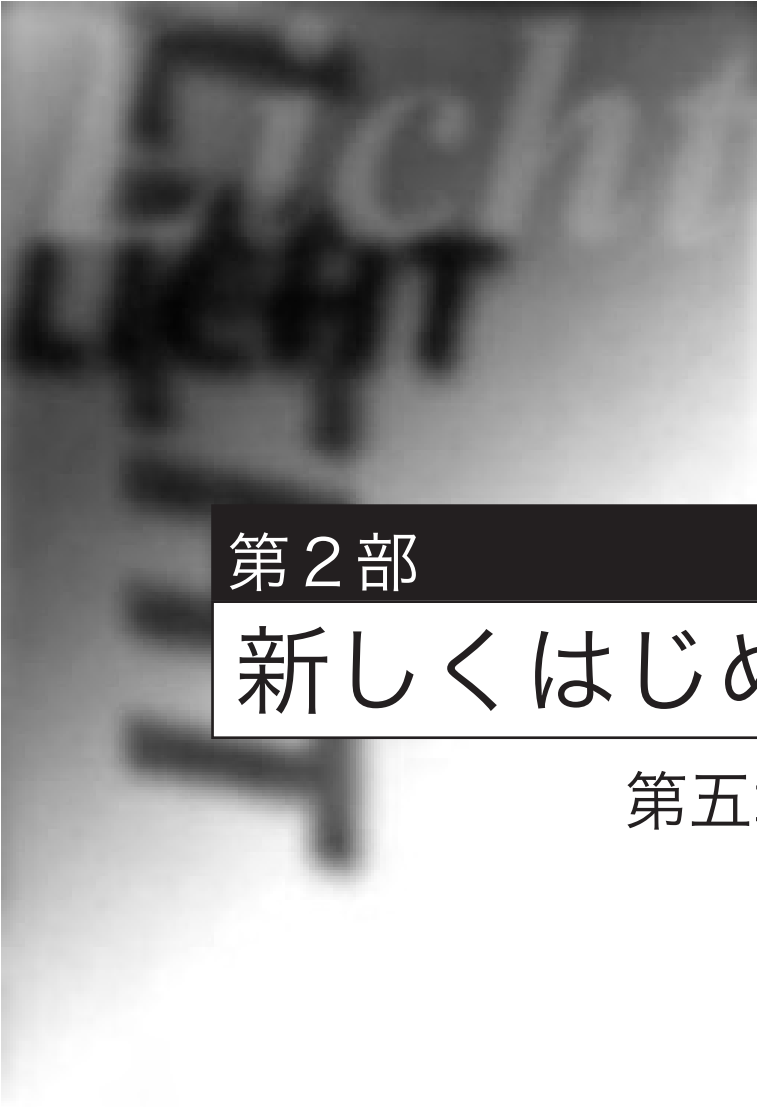


第2部

新しくはじめた事業

第5章 グループワーク

第6章 ピアカウンセリング

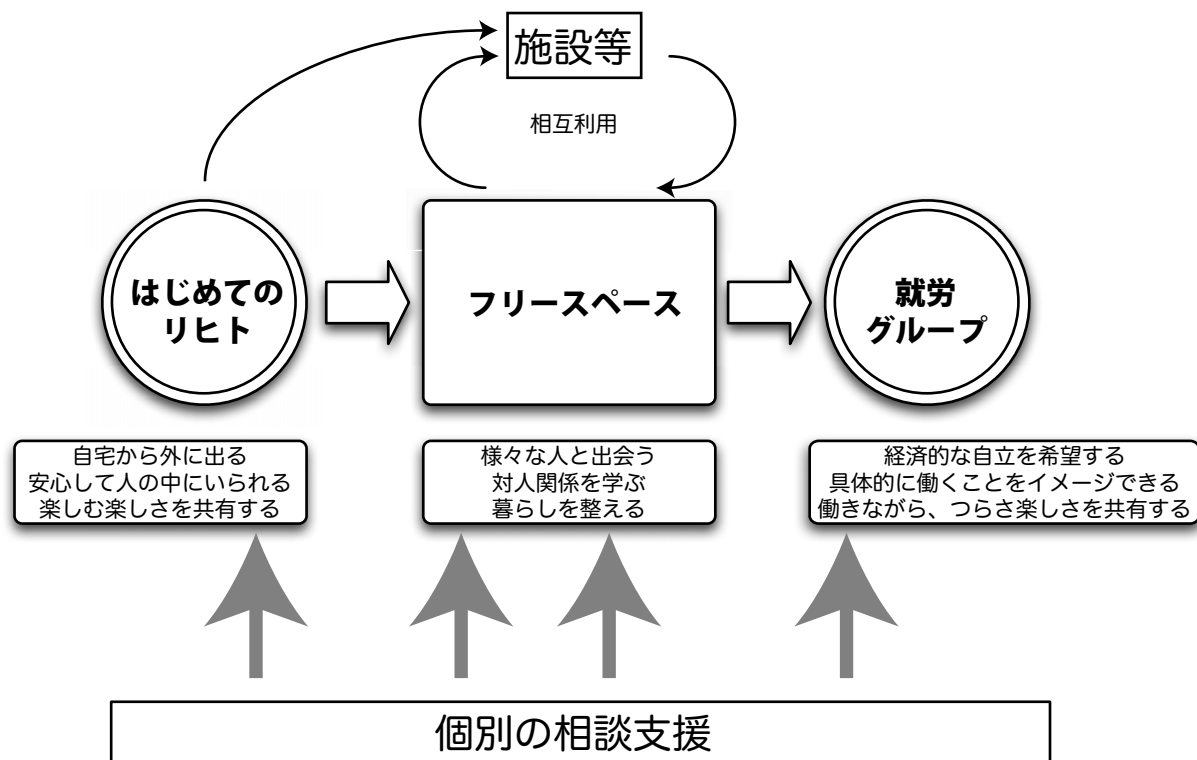


第2部

新しくはじめた事業

第五章 グループワーク

17：グループワーク実施の意図



グループワーク実施の意図

リヒトでは、2005 年度に新たにふたつのグループワークをはじめました。ひとつは「はじめてのリヒト」もうひとつは「就労グループ」です。当初このふたつのグループ以外にも「ひとり暮らし」や「表現」に注目したグループも企画しましたが、希望者が少なく実現には至りませんでした。

リヒトでグループワークを実施することになった意図は、いくつかの理由があります。端的に言えば「リヒトの入り口と出口を用意した」ということになるでしょう。

「はじめてのリヒト」は、様々な理由からリヒトに利用申し込みをしたものの利用がままならない人や、なかなか自宅から出られないような人を対象にリヒトのフリースペースを利用して貰うために企画しました。

「就労グループ」はリヒトを利用している方のなかで、就労を希望している人・アルバイトなどで実際に働いている人、今はまだ就労はできないかもしれないが就労に対する考え方や構えなどを考えてみたい人を対象に企画しました。

グループワークと個別相談支援

グループワークはただ対象となる人が集まればできるというわけではありません。グループワークを実施すると同時に、個別の相談支援も行いその人に沿った支援と一緒に考えていく体制を整えています。「はじめてのリヒト」の場合は、スタッフと知り合う時間を多くつくり関係を構築することに注力しています。また、「就労グループ」では、個別に就労に関する相談などを受けています。

ふたつのグループはどちらも、個別の相談支援とグループワークを並行して行っていることが特徴です。

グループワークとフリースペース

リヒトではフリースペースに必ずスタッフが居るように努力しています。リヒトを利用している方の多くは、フリースペースという様々な人が集まる場所になれるまで、一定程度の時間が必要だと考えるからです。「はじめてのリヒト」では、フリースペースへ順調に移行できるようにするための入り口としての機能を特に意識しています。人とかかわりに困難を感じている人たちに、丁寧に対応しています。

18：はじめてのリヒト

I. メンバー概要

性別 (人)	男性	4	標準偏差 (SD)	
	女性	4	全体	34.5 11.101
年齢構成 (人)	20代	3	平均年齢 (歳)	男性 41 11.895
	30代	3	女性	28 4.527
	40代	1		
	50代	1	居住地 (人)	狛江市 2
				調布市 6

II. 実施内容

	実施日	プログラム	参加者数	スタッフ数
第1回	2005/09/20	自己紹介	5/6	4
第2回	2005/10/04	茶話会	5/6	3
第3回	2005/10/18	映画鑑賞	5/7	3
第4回	2005/11/01	深大寺	4/7	3
第5回	2005/11/15	茶話会	4/7	4
第6回	2005/11/29	茶話会	3/7	3
第7回	2005/12/06	茶話会	4/8	3
第8回	2005/12/20	クリスマス会	6/8	4
第9回	2006/01/17	初詣 (大國魂神社)	5/8	3
第10回	2006/01/31	茶話会	4/8	3
第11回	2006/02/07	茶話会	1/8	3
第12回	2006/02/21	室内スポーツ	2/8	3
第13回	2006/03/07	食事会	4/8	3
第14回	2006/03/14	室内ゲーム	2/8	1
延べ人数			54/104	

III. 参加・利用状況 (N=8)

出席率 (%)	全体	51.9
	男性	68.5
	女性	37.5
登録に つながった 人数 (人)	全体	4
	男性	4
	女性	0
卒業 (人)	全体	4
	男性	2
	女性	2

19：就労グループ

I. メンバー概要

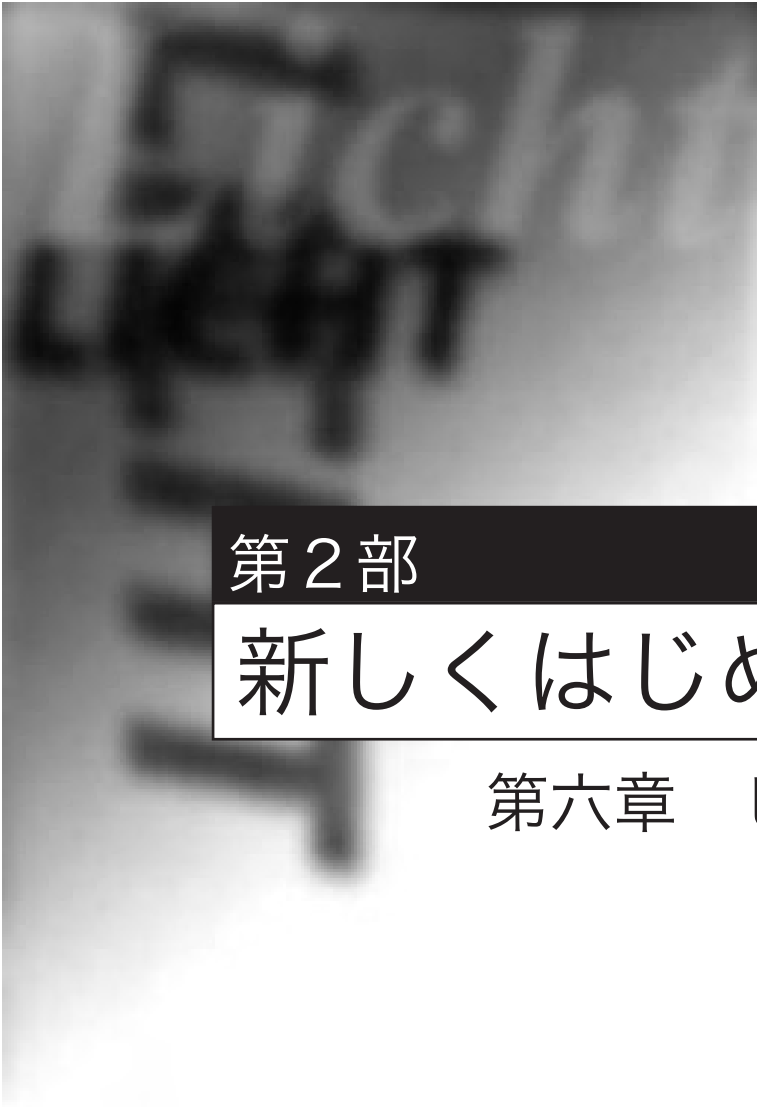
性別 (人)	男性	6	標準偏差(SD)		
	女性	1	平均年齢 (歳)	全体	39.5
年齢構成 (人)	20代	1	6.137		
	30代	1	居住地 (人)	狛江市	6
	40代	5		調布市	1

II. 実施内容

	実施日	プログラム	参加者数	スタッフ数
第1回	2005/09/22	グループ主旨説明／ 就労経験について	3/4	2
第2回	2005/10/06	就労経験について	4/4	2
第3回	2005/10/27	グループにて 話したいこと	2/4	2
第4回	2005/11/10	就労経験について／ 新規メンバーについて	3/4	1
第5回	2005/12/01	何のために働くのか？	4/6	2
第6回	2005/12/22	近況報告／ ハンドブック紹介	4/6	2
第7回	2006/01/12	近況報告／ チェックリスト①実施	3/6	2
第8回	2006/01/26	チェックリスト ①意見交換／チェックリスト ②実施	3/6	2
第9回	2006/02/09	求人紹介／チェックリスト ②意見交換	4/6	2
第10回	2006/02/23	近況報告／面接について	3/6	2
延べ人数			33/52	

III. 参加・利用状況

出席率 (%)	全体	63.4
登録者(人)	全体	4
利用者(人)	全体	3

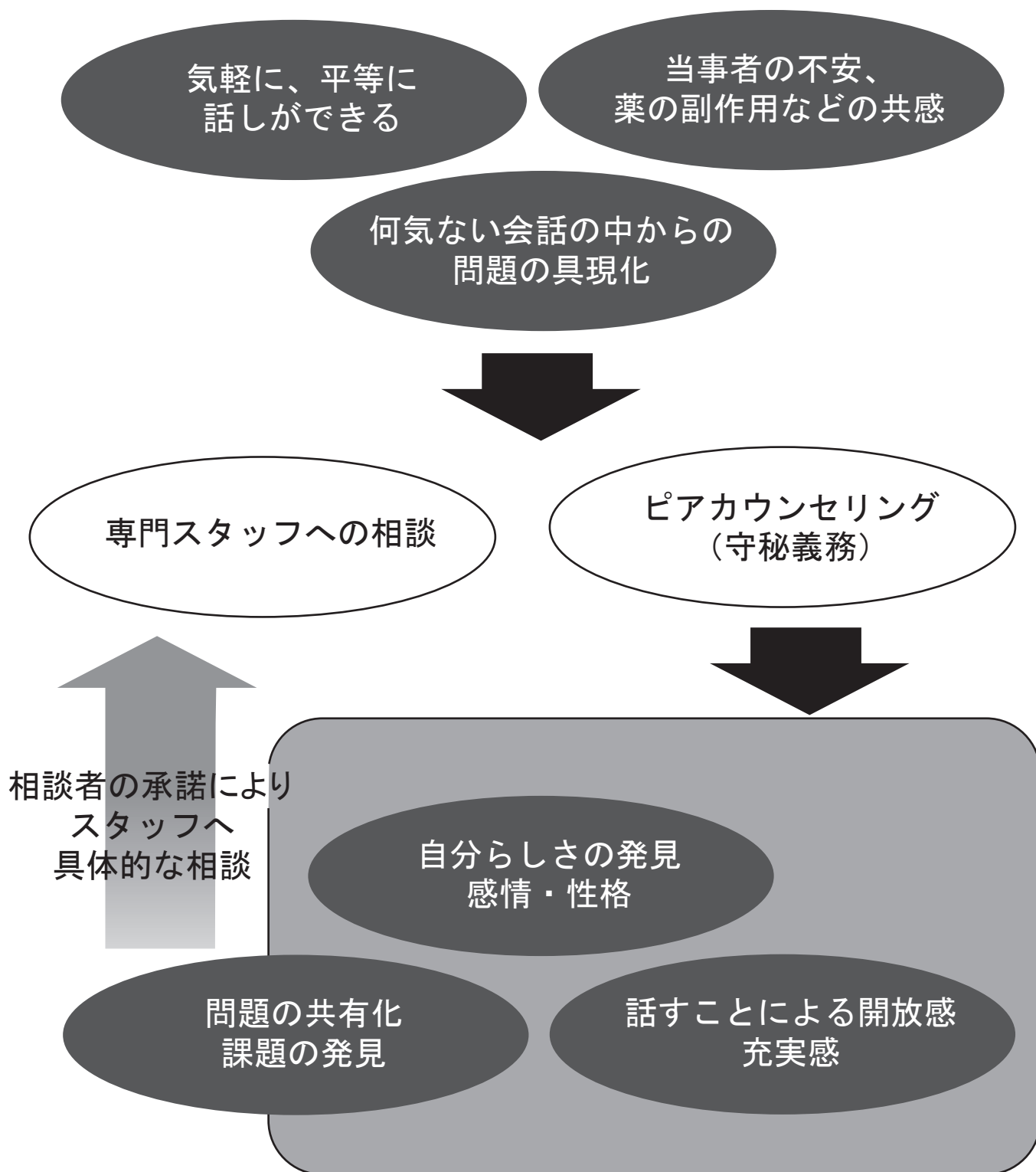


第2部

新しくはじめた事業

第六章 ピアカウンセリング

20：ピアカウンセリングと 当事者スタッフの役割



この配付資料について、ご意見・ご感想などありましたら、下記住所
・e-mailアドレスまでご連絡下さい。

発行日 ： 2006年3月17日

発行者 ： 地域生活支援センター リヒト

印刷 ： 地域生活支援センターリヒト
〒201-0013 東京都狛江市元和泉2-35-1
 あいとぴあセンター3階

e-mail:info@licht2004.net

